

令和5年度 学校評価

自己評価部門

重点目標

年度報告

令和6年4月19日

鶴見大学附属中学校・高等学校

はじめに

総持学園では、創立100周年構想として「V i s i o n 1 0 0」の計画が進められている。本校では、「学びの心で世界を変える。」を教育目標宣言とし、平成27年度より「クレイン 翼 プロジェクト 100」を計画実行している。その目標達成のために、「人間力」・「基礎学力」をベースとして、「挑戦する力」・「探究する力」・「共に生きる力」の5つの力の育成に取り組むことを決めている。そして、目指すべき将来像を「建学の精神を基盤に、グローバル化した未来を生きる力を育て、社会から高く評価され、保護者から深く信頼される卓越した中学校・高等学校」とし、100周年を見据えて、以下のような施策を実践することとしている。

- (1) ホームページのさらなる充実や、公立中学校への情報提供、受験に向けた塾との関係強化といった募集活動を再構築するなど、「中高校として個性の発信」
- (2) さらなる生徒の学力向上、当面はG-MARCHに100名以上の合格実績を目指しさらに、IBの目指す教育にも学びつつ、国内の大学のみならず、海外の大学への進学をサポートすることも考えた「保護者に信頼される教育の実践」
- (3) 保護者に信頼される丁寧な教育を展開するため、健全で働き甲斐のある職場づくりを目指した「総持学園の一員として生きがいの持てる職場環境の整備」
- (4) 目標を掲げた計画的な学校経営を実行する上で、永続的に学校を継続させる基礎的条件として「安定した基盤をもつ法人の経営」

本「学校評価自己評価部門重点目標年度報告」の巻末には、資料として、「学校組織図」、「職員名表」、「生徒在籍数表」、「部活動加入者人数表」、「授業・部活動・教科教室型校舎・進路に関する生徒のアンケート結果」、「授業参観に関する保護者のアンケート結果」、「卒業生の主な合格先」を掲載してあるので、それらを参考にしていきたい。

目次

はじめに	1
目次	2
令和5年度 目標	3
(1) 長期目標 (2) 分野及び中期目標	3
(3) 令和5年度重点目標 (4) 評価の基準	4
(5) 結果	5
学年	
1st ステージ	5
2nd ステージ	6
3rd ステージ	7
教科	
国語科	8
社会科 (地理・歴史／公民)	8
数学科	9
理科	10
英語科	11
保健体育科	11
芸術科	12
家庭科	13
探究科	13
部署	
生徒指導部	15
学習進路指導部	16
入試広報部	19
教務部	20
事務部	21
管理部門	23
(6) 資料編	25
学校組織図	26
職員名表	27
生徒在籍数表	28
部活動加入者人数	29
授業・部活動・教科教室型校舎・進路に関する生徒のアンケート結果	30
授業参観に関する保護者のアンケート結果	33
卒業生の主な合格先	35

令和5年度 目標

(1) 長期目標（大目標）

自立の精神と心豊かな知性を育み国際社会に貢献できる人間を育てる。

教育目標宣言：「学びの心で世界を変える。」

方針：生徒に自分の「好き」をみつけさせ、夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせる。

(2) 分野及び中期目標（中目標）

1. 中高校としての個性の発信

(1) 社会や保護者に向けての情報を提供する。

(2) 中学校・受験業界との関係を強化する。

(3) 同窓会との連携を強化する。

(4) 地域との連携を強化する。

(5) 高大連携を強化する。

(6) 自校史学習の拠点を整備する。

2. 保護者に信頼される教育の実践

(1) 学力の育成と向上：知的好奇心を伸ばし、自ら学ぶ力を身に付ける。

(2) 人間形成の実践：禅の精神に基づいて、豊かな心を育む。

(3) 国際教育の展開：国際舞台で活躍できるコミュニケーション能力を伸ばす。

(4) 生徒の就学支援を充実させる。

(5) 施設設備環境の整備をはかる。

3. 総持学園の一員としての生きがいの持てる職場環境

(1) 魅力ある職場づくりにつとめる。

(2) コミュニケーションがよい、職場づくりをする。

4. 安定した経営基盤を持つ法人

(1) 安定した経営基盤づくりを進める。

(2) 目標を掲げた計画的な学校経営をする。

(3) ガバナンスを強化する。

(3) 令和5年度重点目標

① ステージの重点目標

重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。
------	-------------------------

② 教科の重点目標

重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。
------	----------------------------

③ 各部署の重点目標

生徒指導部

重点目標	ルールやマナーを守らせ、よりよい学校生活を送れるように指導・支援する。
------	-------------------------------------

学習進路指導部

重点目標	教科エリア型校舎の特長を生かし、「学びから入る進路指導」を実践する。
------	------------------------------------

入試広報部

重点目標	中学入試・高校入試ともに募集定員を確保する。
------	------------------------

教務部

重点目標	新しい生活様式を踏まえ、教科エリア型校舎の新機能を最大限に活用し、教育の更なる充実を図る。
------	---

事務部

重点目標	業務の基本を再点検・確認し思い込み等によるミスを防止し、対内外より信頼される事務部となるよう努める。
------	--

管理部門

重点目標	施策の体系を新型コロナウイルス感染症対策等の危機管理も含めて再構築し、関係部署と連携を図りながら、計画的かつ確実に実行できるよう努める。
------	--

(4) 評価の基準

評価	評価の内容
5	十分な達成度である。
4	ある程度満足のいく達成度である。
3	概ねの達成度である。
2	不満の残る達成度である。
1	ほとんど達成されていない。

(5) 結果

① 各ステージの重点目標

1st ステージ

1) 結果

		評価
重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。	3.5
評価項目①	Gyro手帳を積極的に活用し、基本的生活・学習習慣を定着させる。	4
評価項目②	中学生の自覚を持って、自主自立した行動ができるようにする。	3
評価項目③	ステージ目標「えいき」を大切に、相互理解の観点を持って充実したコミュニケーションを図れるようにする。	3
評価項目④	課外活動や集団行動に前向きに取り組み、夢をもって学校生活を過ごす。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	1 学年部は、進学クラスにおいて、男子は元気で落ち着きがない生徒が多く些細なことでけんかになり、生徒指導になるケースが多く学年としても大変であった。また、不登校の生徒、保健室登校のが、特に進学クラスの英組に多く担任の先生が苦勞されていた。女子は全体的には落ち着いて、学校生活を送っていたように感じる。2 学年部においては、一部生徒は落ち着かない面も見られたが、全体的には落ち着いてきたように感じる。反抗期を迎えていることもあり指導に苦慮する点もある。2 学期末に面談等により、多少改善が見られ、来年度に期待できそうである。全体的には、精神的にも成長し、大きな問題を起こすことなくそれぞれが考えて行動できるようになり、いろいろな面で成長が感じられた。
評価項目①	進学と難関進学クラスの間で差はある。入学時より、Gyro手帳の活用に関しては各クラス担任が、徹底して指導と確認をしてきている。上手に活用して、学習計画ができていると生徒は効果が出てきていると思われる。手帳の活用と、記入については二極化してきている傾向がありそこが課題である。
評価項目②	中学生としての自覚を持ち行動できていた。また、一部反抗期をむかえ多少の反発をする生徒もいるが、全体的には教員のアドバイスを生徒は素直に受け止め、はつらつと楽しそうに過ごすことができた。「自主自立した行動」に関してはまだ課題が多い。自分で考えて行動することはそれぞれの学習活動や学年で体験することによって育まれると考える。
評価項目③	クラスとして参加した行事球技大会や体育祭、合唱祭は、男女仲良く協力しながら行えたクラスと、男子と女子の間に隔りがあるクラスと二極化しているように感じた。なかなか全体の前で自分の意見や、リーダーシップをとることが出来ない生徒が多いように感じる中、少ない体験の中で一つ一つの出来事を通して、成長がうかがえた。
評価項目④	部活加入率は高く、それぞれの放課後を充実して過ごしているが、勉強との両立は課題といえる。中学入試合格後の安心による反動が見られる傾向もあるので、キャリア教育もじっくりと実践していきたい。課外活動や集団行動を行う場面では、積極的に取り組む姿が見られた。

2nd ステージ

1) 結果

		評価
重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。	3.5
評価項目①	常に自己を見つめ、自分と向き合い自己理解を深める。	4
評価項目②	何事にも目標を掲げ、計画を立て、それを強い熱意で実行する自立心を持つ。	3
評価項目③	身の回りの整理整頓は頭の整理整頓、時間の余裕は心の余裕とし実践する。	3
評価項目④	常に素直な気持ちで、人の話をしっかり目で聴き、自己の成長に繋げる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の 総括	<p>中学と高校という2つの課程にまたがった2ndステージでは、特活（道徳）をステージ全体で行うことは極めて少ない。それでも講堂朝礼においては、自己を見つめるといった黙念の時間を含めて、自ら前向きに取り組むように指導し、実践できた生徒がほとんどであった。反面、一定数の生徒が時間通りに講堂に入れなかったり、忘れ物があったりと、徹底できない部分もあった。ステージ行事の弁論大会においては、昨年よりもさらに弁士の取り組み姿勢が良く、豊かな人間性をはぐくむ下地が出来ているように思われた。</p>
評価項目①	<p>「自己理解」のきっかけを与えるために、朝礼時などの「黙念」を大切にするよう指導してきた。その時間を通して、自分と向き合う機会となっている。この日々の積み重ねの意義は、今すぐ分かるものではないかもしれないが、生徒たちの成長には影響してくるものと思っている。特活・道徳の題材についても、その時期の応じたものを取り上げることで、成果が上がったものと考えている。</p>
評価項目②	<p>ジャイロ手帳を用いたPDCAサイクルの確立に向け、励ましながら計画を立てることの重要性を継続して問い続けているといった段階である。ある程度の目標を定めている生徒と、まったく見当がつかない生徒との差が大きく、みんなが同じように計画を立てるといったことが、容易ではなかった要因だと思う。</p>
評価項目③	<p>移動教室を行うにあたり、ホームベース・教科教室ともになかなか使い方が身に着かないようで、忘れ物や片付けなどで特定な生徒が目立っている。同様に一定数の生徒は時間の管理に課題があるようだが、それに引きずられてしまう生徒はほとんど見られない。根気強く指導を要する点だと思われる。</p>
評価項目④	<p>中学生と高校生とでは、物事の受け止め方に差があり、それが聞く姿勢にも影響しているように思われる。生徒たちはおおむね人の話に耳を傾けているが、聞くべきときを見分ける力は付いているように思われる。中学生の中にはその気持ちを長く維持できない生徒がおり、この橋渡しの時期の難しさを感じる。4学年の多くは、自分の成長のために人の話を聞こうとしているようだった。</p>

3rd ステージ

1) 結果

		評価
重点目標	自立の精神をもった、人間性豊かな生徒を育てる。	3.5
評価項目①	学習意欲の向上を図り、基礎学力を定着させるとともに探求する力を養い、個に応じた進路実現をサポートする。	4
評価項目②	学校行事、部活動等において上級生としてのリーダーシップを発揮させ、グローバル化していく未来を生きる力を育てる。	3
評価項目③	時間厳守、挨拶、HBの整理整頓等、基本的な生活習慣を確立させ、社会で自立して活動していくために必要な資質を身につけさせる。	3
評価項目④	集団生活の中で規律ある態度を養い、誠実で思いやりのある人間性を育てる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	大きく変化していくこれからの社会を主体的にたくましく生き抜くために、豊かな心で自ら学び、考え、判断し問題を解決していく力を身につけられるよう様々な指導方法で指導してきた。
評価項目①	5 学年部では将来の進路実現に向けて、日々の授業の大切さを再認識させ、授業に真剣に取り組む姿勢を身につけさせた。2 学期には、様々な進路ガイダンスを実施し、大学入試の現状と課題について指導した。 6 学年部では、推薦入試方式を利用する生徒が昨年同様多く、その対応として他学年の先生の協力も得て、個々に応じた指導をした。一般受験では生徒一人一人の受験プランに対し、適切な情報の収集・分析に努め、また学年全員で情報を共有した。
評価項目②	学校行事・部活動などを通じて、チームワークの大切さ・共通の目的に向かうことの大切さに気づき、学年に応じて求められる役割を果たす対応力などを身につけさせた。特に 5 学年部では、1 学期の研修旅行において様々なことを学ぶ機会を与えることができた。
評価項目③	学年部スタッフの工夫と積極的な関わりで、時間厳守、挨拶、整理整頓等、当たり前のことを当たり前に行う基本的な生活習慣を身につけさせようとしたが、時間厳守や約束に対する意識が乏しい生徒が見受けられた。 特に 6 学年部は、2 学期になり遅刻生徒の増加が見受けられた。
評価項目④	特活・ホームルーム等を中心に学校生活全般において、ルール厳守、相互理解、相手の立場になって物事を考える「思いやりの心」を育てようと指導した。その結果、多くの生徒が人間力を身につけ成長できた。

② 各教科の重点目標

国語科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4.0
評価項目①	適切な課題と適時な小テストを利用して、知識の定着と自学自習の促進を図る。	4
評価項目②	教科エリア型校舎の特性を生かし、専門性の高い授業を確立させる。	4
評価項目③	授業や課題、ICT情報の共有を推進し、授業展開の充実化を図る。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	中学・高校ともに、週末ごとに課題を課し、自学自習の習慣の確立、自律の精神の涵養を図った。また、生徒の学力に相応したテキストを課した。提出状況が悪い生徒に対しては各教員が地道に指導し、提出を促した。
評価項目①	中学、高校それぞれに本校の生徒の進度を考慮したオリジナル教材の「のぞみ」（中学全員）、「パワーアップテキスト」（高校1・2年生）を配布し、それを定期的にチェックすることで家庭学習を定着させる一助とした。また、中学では漢字、高校では、漢字、単語、文法の小テストを適宜実施し、基礎力の定着を図った。
評価項目②	全教科教室に教科オリジナルのポスター（文学史等）を掲示し、強化への興味関心を深め、知識の涵養を図った。
評価項目③	授業におけるプリント教材やプロジェクター教材を共有し、授業・教科業務の効率化を図ることができた。新課程共通テストに向けての指導内容の更なる検討を深めていきたい。

社会科（地理・歴史／公民）

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	3.7
評価項目①	地理・歴史・公民の学習を通じて、基礎的な知識や技術の定着を図るとともに社会的事象への関心を喚起する。	4
評価項目②	生徒が主体的対話的に深く学ぶことができる授業を展開し、社会的事象に関して、多面的・多角的に課題を把握させ、解決に向けた考察させる。	3
評価項目③	ICT教育の推進を引き続き図ると共に、教科研究の充実と情報の共有化、積極的な情報発信を図る。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	生徒用タブレットの活用、新しいプロジェクターの効果的な利用を図り、各教員が視聴覚に訴える方式を取り入れつつ授業に取り組んでいる。また、メディアの充実にも力を入れており、社会科の各教科における共通テストの概観を生徒が手に取り、見ることができるようにする等の環境を整えた。昨年度より移動教室が再開されたため、生徒に社会科メディアを見てもらう機会が増えた。今後も、より興味・関心をそそる環境を整備していきたい。
評価項目①	各教員が各種研修会に出向き、研鑽をつむなど、授業力の向上に努めている。また、社会科では、全教員がプロジェクターの活用を通じて、生徒へ学習内容の事物・人物・できごとなどを視覚的に印象付け、授業への強い関心を引き出すことができた。
評価項目②	各科目や単元に応じて、協働的な学習を行うことができた。1～4学年部までBYODを実施しているため、タブレットを活用した授業展開が増えてきている。また、ロイロノートを使いこなしている生徒が多く、課題の提供や連絡等で活用できている。
評価項目③	社会科では各教員が積極的に教材研究に励み、また、各科目ごとに授業をリードする教員を定め、授業で用いるパワーポイント教材を共有したり、共通の小テストを行ったりするなど、各クラスで教材等の共有をすることができたため、質の高い授業を展開できた。教科メディアを使つての「企画展」も充実させていきたい。

数学科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	3.7
評価項目①	課題や小テストを利用してスパイラル学習を定着させ、知識および表現力を身につける。	4
評価項目②	オンラインを課題提出などに利用し、家庭学習習慣や知識の定着を図る。	3
評価項目③	クラスやコースの違いを踏まえた授業を展開する。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	中学においては、週末ごとに宿題を実施して自学自習の習慣を身につけ、自由課題用の問題集を与え、また高校においては、教科書準拠の問題集以外に、課題プリントを与えたり、参考書を紹介して、自主自立の精神を養った。
評価項目①	中学では、業者テストの事前学習として課題冊子を与え、同じ単元の問題を繰り返して解けるようにした。また、自分自身で答え合わせをして正誤をつけさせ、間違えた問題は反復してやり直すように指導した。 高校では、教科書準拠の問題集や復習プリントを利用し、反復学習を心がけた。
評価項目②	中学では、毎週末や長期休暇前に課題を与え、計算力や数学的基礎知識を身につけさせた。課題の未提出者が多く、それらの生徒に対しては、様々な指導を実施し、平常点にも反映させたが、顕著な成果は見られなかった。 高校では、必要に応じて課題を与えたり、小テストを実施して、基礎力定着を図った。

評価項目③	1stステージでは進学クラスと難関進学クラスの授業進度は同じにしたが、授業での扱う問題に難易度の差をつけて指導した。特にアドバンスクラスでは、プリント学習を増やし、応用力を養った。高校では、演習問題の量や質でコースにあった指導を行った。また模擬試験で結果を出すことを意識して定期試験の作問を心がけた。
-------	--

理科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4.0
評価項目①	教科エリア型校舎の特性を生かし、専門性の高い授業の確立を図る。	4
評価項目②	教材・器具・理科消耗品の充実を図り、観察・実験が滞りなく実施できるようはたらきかける。	3
評価項目③	各実験室の備品等のチェックと、備品台帳の完成を図る。	5

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	昼休み・放課後には生徒が教科研究室や教科メディアセンターに訪れ、生徒と教員の「理科」を通じたコミュニケーションの場となっている。実験演示や演習において教科エリア型校舎の特長が生かされた。特に教科メディアでは高校3年生～中学1年生まで教諭とテーブルを囲み、ホワイトボードを活用するなど充実した利用が見られた。
評価項目①	各教員が工夫して専門性の高い授業を実践している他、教員間の連携を図り、教科としての取り組みができた。感染防止対策を行いながらも、高校生を中心に実験室を利用し、実験観察実習ができたのは大きい。また、中学生では同時期、昨年以上にグループワークが充実できた。
評価項目②	物品購入に時間がかかることが課題である。物品購入に関しては事務部と密に協議し効率よく購入ができるようにしていきたい。今年度は昨年以上に実験観察が感染防止対策をしつつ実施できた。また、加えて横浜薬科大の出張授業も実施し定期考査にも盛り込むことができた。
評価項目③	長期休暇を利用して、理科備品台帳を完成させることができた。これと並行して教科研究室の整理整頓が進んだ。

英語科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	3.7
評価項目①	英語コミュニケーション能力・姿勢を習得させるため、4技能を意識した授業の確立を図る。	4
評価項目②	課題や小テストを利用して、知識の定着を図る。オンライン発信を有効に使う。	4
評価項目③	ICT教育やオンライン授業を充実させるため、教材、資料、情報の共有化を図る。また、タブレット(BYOD)の有効活用を研究する。	3

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	共通テストの内容を意識しながら、生徒たちに実用的な英語を習得させるように取り組んでいく。4技能を踏まえた受験英語と実用英語の指導が円滑に進みつつある。
評価項目①	デジタル教科書の使用が始まり、ICT教育と4技能（読む、書く、話す、聞く）を取り入れる工夫をさらに向上させた。英語に慣れさせ、実践的な英語力を身につけることを目標に指導している。中学生は、グローバルプログラムに基づき英語②や7限、国際理解の授業がリンクし、主体的に行動できる英語型探究活動の実践に努めてきた。高校生は、プレゼンやライティングの活動を通して発信力を養う機会を増やすようにしている。活動を通して常に受験を意識しながら授業を展開した。
評価項目②	月曜日の朝テストが定着し、今後より活性化するように教科全体で取り組んでいく。中学では日頃より、授業内においてかなりの頻度で小テストを実施している。ロイロノートやスタディサプリを用いた課題の発信にも生徒は熱心に取り組んでいる。
評価項目③	教科内で資料や情報の共有を図り、授業のレベルアップに努めた。上位層を引き上げながら、学力下位層が伸びる授業作りを考え、工夫してきた。

保健体育科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4.0
評価項目①	課題や小テストを利用して、知識・技能の定着を図る。	4
評価項目②	健康や安全を考え、正しい判断の下、行動の選択ができるようにする。	4
評価項目③	集団的行動や身体表現を通して、コミュニケーション能力を育成する。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	体育では、クラスにより能力や意欲に差があるが、全クラスまじめに取り組む姿勢が見られた。全校による体育祭の実施により、団結が深まり授業に良い影響が出ている。運動能力に合わせ、基本的技能の習得とともに、自ら進んで体を動かすことに重点を置いて授業を実施した。保健・体育ともタブレット活用の時間を増やしている。
評価項目①	体育では、反復練習の中でチーム内で教え合うなどのグループ学習を通して、また保健では、プリント課題や小テストの実施、定期テストの振り返り授業などで知識や技能の定着を図った。
評価項目②	保健の授業にて、身体づくりや健康問題・応急処置などを学んでいる。けがや事故が起こらないための行動をとることはもちろんのこと、緊急時の対応にも取り組んだ。
評価項目③	実技の練習やゲームの進行、ダンスの作品作りなど、グループ学習によって意欲が高まり自主性や積極性が増した。体育祭は、重要なコミュニケーションの機会となった。

芸術科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4.0
評価項目①	ICT機器を活用しながら専門性の高い授業を展開する。課題などをオンライン配信し主体的な学びを促す。	4
評価項目②	各教科の基礎的な能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、表現力と技術力の向上を図る。	4
評価項目③	音楽、美術、書道、3教科の連携を深め、教科の枠組みを越えた広い視野での活動を意識する。芸術文化を愛好する心を育て、豊かな情操を養う。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	メディアには生徒の制作した作品やレポートを常に展示し、お互いの感性を認め合い芸術への興味関心を引き出すことができた。また、ICT機器を活用しながら授業展開を工夫し、生徒が主体的に学び表現力と技術力を磨けるよう促した。
評価項目①	デジタル教科書や映像資料などのデジタル教材を多用し、専門的な深い学びにつなげることができた。ロイロノートを活用しあらかじめ音源や制作見本を送ることで、授業で専門的な指導をする時間を確保できた。映像資料は生徒の反応も良かった。
評価項目②	音楽では数年ぶりに合唱祭を完全開催することができ、合唱を通して、仲間と歌い合わせることの喜びを感じ、美しいハーモニーを味わうということを体験させることができた。自分を表現することを学んだ生徒が多いが、今後さらに技術力を伸ばしたい。
評価項目③	年度末に3教科で連携し成果発表会を行い、音楽ではアンサンブルの演奏発表、美術と書道では制作発表をして自分を表現した。また、様々な芸術に触れて感性を高めた。

家庭科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	3.7
評価項目①	オンラインを課題提出に利用したり、小テストを利用して、知識の定着を図る。	3
評価項目②	メディアセンターや展示コーナー及び教科教室の充実を図る。	4
評価項目③	実習授業の持ち物をオンラインで配信することで忘れ物をなくす手立てとする。実習を通して、達成感を味わえる指導をし、創意工夫能力や生活力を身につける。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	意欲的に楽しく授業に臨んでいる姿勢を感じられたことは、自律の精神が育つ上において役立っていると思われる。調理実習などは男女混合班のためお互いが教えあいながら仲良く協力して作業を進め、作業の遅い生徒への気遣いが生徒間で上手にできるようになった。
評価項目①	課題については、高校生は100%の提出。中学生は登校していない生徒が若干名いるため100%とはいかなかった。繰り返し教えることに力を入れ、小テストをすることで疑問や結果を理解、把握することができた。
評価項目②	中学生・高校生両方の授業での製作した作品を展示した。また、特活自由研究での1stステージ・2ndステージの生徒の優秀作品を展示するなど、充実させることができた。
評価項目③	高校生は実習で学んだことを基に、家庭で創意工夫して実践する生徒が多くなった。中学生は創意工夫まで到達しなくとも、自分の歴史を振り返り、家族が深い愛情で支えてくれていることが理解でき、手伝いや親子のコミュニケーションが増えてきた。

情報科

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	3.7
評価項目①	課題や小テストを利用して、知識の定着をはかる。	3
評価項目②	情報モラル・セキュリティなどの重要性を理解させ、ICT教育の充実をはかる。	4
評価項目③	課題などの発表を通して、プレゼンテーション能力の向上をはかる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	情報モラルやセキュリティ、著作権等については積極的に取り組む姿勢が見られた。ICT化の流れに乗れるように努力をしているように感じられた。本年度よりカリキュラムが変更となり、プログラミングを例年以上に取り組まなければならなくなり、また、入試問題にも取り入れられるため勉強することが多くなった。
---------	---

評価項目①	実技試験を通して、また、毎時間始めのタイピング練習などを通して、知識や技能の定着をはかることができた。
評価項目②	情報モラルやネット犯罪などの脅威を感じ取り、重要性を理解することができた。著作権や肖像権などについても日常生活で注意して使用することができた。
評価項目③	アプリケーションソフトを使用して、スマホで使用できる防災アプリの作成を自主的に係分担をし、情報収集・分析・構成編集をして、発表することができた。また、次回へ繋げるように相互評価することもできた。

探究科

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を発展させ、自律の精神を養う。	4.0
評価項目①	探究することの意義を理解する。また、授業に思考ツール・対話的手法を積極的に取り入れ、探究活動の6つのステップ「興味関心⇒課題設定⇒情報収集⇒整理分析⇒まとめ表現⇒振り返り」の方法と技術を定着させる。	4
評価項目②	実社会や世界で起きている問題に目を向ける機会をつくり、生徒の中に社会参画の意識を醸造し、今後の地域連携や主体的な進路決定のベースをつくる。	4
評価項目③	図書館、情報科、学年など他部署と積極的に連携し、学校の学習環境の利用を促進するとともに、生徒が持っている知識を活用できる多様な場面を創出する。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	探究科はラーニングコモンズである図書館を教育活動の中心とした。主体的・対話的で深い学びを目的として、司書・司書教諭との連携のもと、視聴覚室、図書館内で活発なグループワークを行ったり、情報収集を行ったり、継続的に活用した。グループワークの際には、図書館内の学習スペースの可動式机を一次移動し、広い空間として活用するなど、柔軟に学習環境をデザインさせていただいた。年間を通して本校の学習空間を最大限に活用し、主体的で自律的な学習を促すことが出来た。
評価項目①	「探究基礎」では、探究の技術と方法の理論を1学期に学び、2学期に対話促進ツール×オリジナル教材に取り組む等、探究のプロセスを一つ一つ丁寧に取り組むことができた。3学期は、「探究基礎」・「探究」ともに個人探究・グループ探究を行う中で、一連の学びを実践できた。本を借りる生徒が増えたのは隠れた大きな成果だった。
評価項目②	「探究基礎」では、「世界を知るワーク」、「シンキングツール×ジェンダー問題」等のオリジナル教材を通して、実社会や世界で起きている問題に目を向ける機会をつくった。「探究」では、「学内職業インタビュー（司書教諭＋養護教諭＋事務職員＋教科教員を含む）」等を通して、社会人への意見の聞き方などを学ぶだけでなく、大人の職業観に触れる中で、ステークホルダーと社会参画への意識を醸造できた。
評価項目③	図書館連携で図書館の使用方法（日本十進分類法・ラベルの読み方・書籍検索の方法など）を学んだこと、探究活動による情報収集の機会が作れたことで、学校の学習環境の利用・自走学習を促進できた。学内職業インタビューでは、教職員で協力できた。

③ 各部署の重点目標

生徒指導部

1) 結果

		評価
重点目標	ルールやマナーを守らせ、よりよい学校生活を送れるように指導・支援する。	4.0
評価項目①	「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめ防止教育を強力に展開する。特にSNSに絡むいじめが多くなっているが、SNSの利用の仕方なども講演会などで注意喚起していく。	5
評価項目②	校内外においてきちんとした制服の着こなしをさせる。	4
評価項目③	校内での携帯電話の使用は禁止しているが、校外においても「歩きスマホ」は厳禁であることを徹底させる。	3
評価項目④	インターネットにおける正しい利用ができるように指導・支援する。	4
評価項目⑤	生徒会や委員会の自発的・自主的活動を支援する。	4
評価項目⑥	校内の清掃や整美を徹底させる。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	ルールを守ることの大切さを、普段から道徳やHRなどを通じて話しているが、生徒たちは校則などよく守ってくれている。携帯電話の使用や登下校時の歩き方のマナーなど近隣から注意を受けることもあり、今後、より一層のマナー教育を充実させたい。
評価項目①	定期的に「いじめ防止対策会議」を開き、学校全体の「いじめ防止」に努めてきた。「いじめ」と認識される事案は例年数件発生するが、今年度も初期の段階で縦・横の連絡を密にして対応したため、重大事項に発展することには至らなかった。
評価項目②	道徳等で“校内外でのきちんとした身だしなみ”について生徒たちに理解を求めた。定期的に風紀指導も実施したが、大部分の生徒たちはよく守っていた。ただ、最近、女子のスカート丈が短い、男子の髪の毛の長さが長くなってきているなど本来であれば違反＝切符で指導できたことも、ブラック校則などの問題もあり、なかなか強く指導しきれない場面も出てきているのも事実である。校則に関しては、私立とはいえ、本校でも今後一部改定していかなければならない項目もあるので、生徒指導部としても検討していきたい。
評価項目③	歩きスマホによる事故も多発しているため、生徒たちにその危険性について話をすると共に、前年度よりキップ指導の対象とし、校外指導も行った。携帯電話の校内の使用については、大部分の生徒はよくルールを守っているが、懲戒指導を受けた生徒もいた。 今年度は、中全・高校1年生がタブレットを使用するようになった。大部分の生徒は正しい使い方をしているが、やはりスマホ同様にゲームなど禁止事項の使用で生徒指導になってしまった生徒も出たのが残念である。

評価項目④	LINE 等で友人の悪口を書き込み、生徒指導を受けた生徒もいたが、下級生ほどその危険性など理解できず、軽率に使用してしまうようであった。1学期に1st・2ndステージには専門業者を呼び、正しい利用の仕方を講演していただいた。
評価項目⑤	学校行事では生徒たちが中心となって活動する場面が増えた。 コロナ禍開けではあったが、今年度の体育祭は例年通りの形で実施した。例年通り大変盛り上がり、保護者も多数来校し、楽しんで見てくれているみたいであった。今年度は中学・高校合同で行ったが、特に低学年は上級生の活躍を見て驚いているようであった。 光華祭においては、今年度は感染対策に十分気をつけて、例年に通りの形で実施したが、生徒会を中心に本当によく考えられた素晴らしいものができたと感じた。特に、後夜祭は近年では本校生徒の最大の楽しみの一つに成長したが、これも生徒会の生徒を中心に、多くの先生方の参加も含め協力してくれたおかげだと思われる。
評価項目⑥	生徒たちは毎日の清掃をしっかりと行っている。学期末や学校説明会前の定期的な大掃除でも、生徒たちは一生懸命、掃除をしてくれた。昼食時に黙食するなど、生徒たちはコロナ対策にも協力してくれた。

学習進路指導部

1) 結果

		評価
重点目標	教科エリア型校舎の特長を生かし、「学びから入る進路指導」を実践する。	4.0
評価項目①	【将来を見通した資質・能力の育成】 新しい学習指導要領の主旨を踏まえ、21世紀型教育推進委員会とも連携して思考力・判断力・表現力を育てる施策を実行する。特に、「主体的・対話的で深い学び」については、同委員会をはじめ、探究科・特活LHR科やその他の各教科、教務部と連携して体系的な整備を推進する。	5
評価項目②	【きめ細やかな学習指導、進路指導】 生徒の進路意識を調査、把握して、生徒一人ひとりが進路意識を高めるよう、教育相談や三者面談の機能のいっそうの充実を図る。また、図書館活性化の取り組みと併せて補習・補講体制のいっそうの充実を図り、きめ細やかな学習指導を行う。学年・学級経営と連携して、Gyro手帳・ファイルを活用したきめ細やかな指導を通じて、生徒の自学自習の学習習慣の定着を図る。	4
評価項目③	【時機に応じた学習進路指導計画の立案・実行】 各学年の段階に応じた学習進路指導計画を立案し、進路意識を啓発する行事・諸活動を通じて、生徒一人ひとりが自己を高める進路目標をもち、積極的な行動をするよう働きかける。	4
評価項目④	【難関大学合格実績の向上】 いわゆる新課程入試を視野に入れ、引き続き、各教科の学習指導を支援する。また、大学受験に向けた学習・生活態度を涵養するとともに、キャリア教育や難関大を目指す生徒を支援するプログラムのいっそうの充実を図る。 高校の特別講座については、引き続き活性化を図り、難関大合格を目指す生徒を支援していく。図書館活性化の取り組みと併せて、発展的な学習を支援する体制のいっそうの充実を図る。	4

評価項目⑤	<p>【さまざまな進路希望への対応の充実】</p> <p>大学進学以外の進路希望分野（看護・医療技術系専門学校進学希望者、その他の分野の専門学校進学希望者および就職希望者）について、適切な情報を提供する機会を設ける。また、海外大学への進学指導について、21世紀型教育推進委員会とも連携しながら情報提供を行う。このほか、鶴見大学やその他の大学等と連携し、出張講義などの学びの機会拡充を図る。</p>	4
評価項目⑥	<p>【教科指導力、進路指導力の向上】</p> <p>教科指導力・進路指導力の向上を図る施策をよりいっそう充実させる。校内では、模試分析会その他の研修機会を生かし、各教科・各ステージ・各学年部、校内各部署との連携を図る。また、学習進路指導部の各教員が部内の業務を共有し、円滑な業務の進行を図ることができるよう努める。</p> <p>コロナ禍によりICT教育および大学入試におけるICT活用の状況が大きく変化したことを踏まえて、教員研修委員会やICT教育研究グループとも連携して、校内研修のいっそう充実を図るとともに、必要な情報を生徒に提供する。</p>	4
評価項目⑦	<p>【保護者との協働による学習進路指導の充実】</p> <p>保護者に近年の入試動向を理解していただく機会を設けるとともに、適宜情報を提供、共有し、協働して生徒を支援する体制を構築する。</p>	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	<p>教育政策の動向を踏まえて、学習指導部、進路指導部ともに、各教科・学年部・教員研修委員会・21世紀型教育推進委員会、その他の校内各部署と連携して指導内容の充実を図ってきた。</p> <p>図書部では、図書館活性化を引き続き目標に掲げ、事務局や鶴見大学図書館とも連携して、放課後学習支援態勢の強化、英語科の洋書多読支援、POPコンテストへの参加などで成果を上げることができた。</p> <p>教員研修委員会との連携では、オンライン研修会・セミナー等に多くの教職員が参加することができた。その結果、教育改革の動向について教職員の理解と実践が大きく前進している。</p> <p>21世紀型教育推進委員会との関連では、「つるふグローバル」教育を展開し、イングリッシュキャンプ・オーストラリア語学研修などと統合して本校独自の国際教育活動とすることを図っている。</p> <p>各学年部との連携では、Gyro手帳（能率手帳スコラ）による学習習慣定着への働きかけを継続することができた。また、数年来、チーム学校による学習指導力、進路指導力の向上に努めてきたが、スタッフとの連携を順調に展開することができた。</p> <p>また、グローバル教育セミナーを4年ぶりに実施することができた。</p> <p>さらに、高大連携の強化し、進学先として鶴見大学歯学部への関心を喚起することを目的として歯学部コースを設置することとした。来年度からの開始を目指して周知し、募集を行う予定である。</p> <p>一方、引き続き、ウェブ活用等による生徒・保護者・教職員間の情報共有のいっそうの充実を図っていく必要がある。特に、タブレットを用いた授業は、今年度より中学1年から高校1年で展開しており、活用方法の探求が引き続き必要である。次年度に向けてできる限りの対応を検討していきたい。</p>
評価項目①	<p>【将来を見通した資質・能力の育成】</p> <p>1学年部の7限を使って探究型「つるふグローバル」授業を実施し、イングリッシュキャンプ・オーストラリア語学研修などと統合して本校独自の国際教育活動として展開することを図っている。</p>

評価項目②	<p>【きめ細やかな学習指導、進路指導】</p> <p>チーム学校による学習指導力、進路指導力の向上に努めた。具体的には、教員と教育相談支援員・学習支援員・ICT支援員、及び事務部が分業・協業し、「チーム鶴見大学附属」としての態勢がよく機能した。また、図書館活性化の取り組みと連携して補習・補講体制の充実を継続し、学年・学級経営と連携してGyro手帳（能率手帳スコラ）・ファイルを活用したきめ細やかな指導を実践することができた。</p>
評価項目③	<p>【時機に応じた学習進路指導計画の立案・実行】</p> <p>各教科・各学年部との協働により、校内模試を滞りなく進行するとともに、年間指導計画に基づいた見通し・振り返り学習活動や発展的な学習指導の拡充を図ることができた。また、Gyro手帳（能率手帳スコラ）による学習習慣定着への働きかけを継続するとともに、高校各学年部の学年・学級経営と連携し、スタディサプリやベネッセのCompassを活用して、生徒の見通し・振り返り活動の充実を図ることができた。</p>
評価項目④	<p>【難関大学合格実績の向上】</p> <p>大学入試における定員管理の基準変更、少子化のいっそうの進展、既卒生受験者の大幅減などにより、大学入試の競争緩和傾向のなか、部署として常に最新の情報を収集することに努め、教職員・生徒・保護者に適切に情報提供を行うことができた。次年度以降も引き続き、図書館活性化の取り組みと連携した発展的な学習を支援する体制作り、日ごろの教科学習、講習・講座や模試分析会などの授業改善・向上への取り組み、予備校・塾との連携強化による情報提供、施策立案・実行力の向上に努めていきたい。</p>
評価項目⑤	<p>【さまざまな進路希望への対応の充実】</p> <p>三松幼稚園・總持寺保育園体験学習、鶴見大学図書館司書体験学習および外部機関での看護体験学習等を通じて、専門職従事者に求められる資質や素養を育む働きかけを行うことができた。グローバル教育セミナーを4年ぶりに開催することができた。</p>
評価項目⑥	<p>【教科指導力、進路指導力の向上】</p> <p>従来から取り組んできたGyro手帳・ファイルの活用に加えて、1学年部から4学年部までBYODによるタブレットを用いた授業を展開し、学習指導、進路指導の向上に努めている。</p> <p>1st・2nd ステージでは、Gyroファイルなどによる学習習慣の定着に向けた活動、指名制補習、3rd ステージでは難関大受験指導等の取り組みで、成果を上げることができた。なお、ここ数年で、学期末補講・特別補講・指名制補習などの制度構築が進展したが、日々の補習・補講に取り組みやすい環境作りに向けて課題を残している。</p>
評価項目⑦	<p>【保護者との協働による学習進路指導の充実】</p> <p>ICT活用により情報提供に努め、生徒や保護者との情報共有を図ることができた。</p>

③ 各部署の重点目標

入試広報部

1) 結果

		評価
重点目標	中学入試・高校入試ともに募集定員を確保する。	4.2
評価項目①	将来の6カ年一貫化を見すえ、中学募集の強化を図る。	4
評価項目②	ホームページ・Instagram・LINEを充実させる。	4
評価項目③	募集特に学習塾訪問活動の充実、強化を図る。	4
評価項目④	校内外で開催される諸入試イベントの充実、強化を図る。	5
評価項目⑤	情報の有効な発信を図る。	4
評価項目⑥	他の関係部署との十分な連携を図る。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	校内開催の説明会・体験イベント及び模擬試験（四谷大塚・首都圏模試など）、光華祭等の公開行事、募集活動も4月当初より開始し、予定通りすべて開催することができ、中学・高校入試ともに昨年を上回る動員数を達成することができた。結果として中学・高校入試ともに応募者数・受験者数を増加させることはできた。ただし、今後予想される生徒減に対応すべく、受験者数・入学者数を安定的に確保するには、学校全体として相当の努力と改革の継続、その効果的な発信が求められよう。
評価項目①	現在進行中の教育活動のねらいと取り組みを再整理し、生徒がいかに学び、いかにその学びを発展させていくか、受験生・保護者がイメージできるような展開を、特に中学入試説明会や塾開催説明会などで試み、学校案内でも具現化しつつある。近年に受験界で注目を集めている私学をより意識しながら、目新しさとインパクトを強めていく必要がある。
評価項目②	ホームページ及びSNSにて、情報の更新頻度の増加と内容充実につとめた。教育活動や中高入試等に関する最新情報を中心に、受験生・受験生保護者、在校生・保護者への情報も適宜配信することができた。100周年をむかえ、卒業生への発信も充実させたい。
評価項目③	学習塾への訪問活動は4月当初より開始、日能研・啓進塾などの出張説明会に加えて、サピックス・トライ・ユリウスなど大手塾主催のオンラインでの企画に数多く参加、特に近隣大手塾からの多くの受験生の獲得につながった。
評価項目④	外部開催の相談会・イベントの多くが再開し、校内開催の模試とともに、幅広く本校を告知する上での貴重な機会となった。校内開催の説明会も4月以降に予定通り開催、内容面での充実を図り、中学・高校入試ともに受験者数の増加につながった。
評価項目⑤	中学校回りを入試相談と合わせて計3回実施、各中学校との情報交換を継続し、募集上の変更点等を的確に伝えることができた。
評価項目⑥	募集活動、入試業務全般において、特に新たな出願システムの導入に際して、教務・事務をはじめとする関連部署とは、ほぼ円滑な連携をはかることができた。

教務部

1) 結果

		評価
重点目標	新しい生活様式を踏まえ、教科エリア型校舎の機能を最大限に活用し、教育の更なる充実を図る。	3.9
評価項目①	(統括)新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したとはいえ、注視はしつつ、常に全体を意識して安心・安全な学校運営が図れるように関係各部署と連携しながら業務を行う。	4
評価項目②	(運営)アフターコロナとして学校行事の再開に向けて動く。また、年間計画および各行事等を、各部署との調整を図りながら円滑に運営する。	3
評価項目③	(文書)定期テスト・各種模擬試験等を円滑に実施する。天候・交通の影響による遅延等や不測の事態においても適切に対応できるよう各部署と連携を図る。	3
評価項目④	(統計)学校内の情報を正確に処理し、その把握に努め、各部署との連携を図る。	4
評価項目⑤	(情報管理)今年度から成績処理に関する新しいプログラムが導入される。それによる業務の移行をスムーズに行い、業務に支障がないようにする。	5
評価項目⑥	(体験研修交流事業)アフターコロナを踏まえ、国内外の情報を収集し、企画の充実を図る。	4
評価項目⑦	(修徳)建学の精神をふまえ、日々朝晩の黙念を大切にし、常に自己と向き合い正しく自己理解に努め、他者への感謝と思いやりの心を忘れず、何事にも「目標・計画・熱意」をもって、一生懸命に取り組む。「一点になり切れ」である。	4
評価項目⑧	(文化事業)図書館の環境整備と活性化を図り、蔵書活用を充実させ、生徒が自主的に利用できるような学習環境を提供する。生徒の豊かな感性を育むためにも、芸術鑑賞会の企画実施に努める。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	部署ごとに連絡を密に取り、工夫出来るところは行い、円滑に教務関係の業務を遂行できた。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行後もコロナやインフルエンザが流行した時期があったが、宿泊行事を含めた学校行事など予定通り実施することができ、コロナ禍前の学校生活にほぼ戻ったといえる。次年度もいつ感染症が流行しても対応できるよう、引き続き一層の工夫と業務の見直しを行い、生徒の安心安全を第一に考えた学校運営が出来るようにしていきたい。
評価項目①	各部署や教職員の意見を参考にした上で、工夫を重ね、概ね支障なく業務内容を円滑に遂行できたと思われる。内規の点検・見直し作業も最終段階に入り、発行することが出来た内規集もある。また、昨年度新たに導入した学習成績処理システムも、指導要録及び調査書の発行など、概ね予定通り進んだ。次年度も、部署毎に業務の確認と連絡体制の徹底をしていきたい。
評価項目②	校内外の関係各所と調整し、アフターコロナとして学校行事を円滑に実施することができた。学校行事や入試について時期や実施方法を再検討した。次年度以降も状況にあわせて、都度検討を行っていきたい。

評価項目③	定期テスト等について、交通機関の遅延に対しての処置を含めて滞りなく実施することができた。一部の学年・教科の60分試験における変則的な時間割もスムーズに実施できている。ただし、時間割や監督配置の采配において一部ご意見を頂戴しているため、考慮していく。今後もトラブルのないように細心の注意を払い、円滑に試験を進行していきたい。
評価項目④	各種学校調査に関しては事務の方々や部員の協力もあり、滞りなくできた。入試作業は昨年度からミライコンパスに変更して、注意をしていたが高校・中学入試共に多少のトラブルがあった。今後は準備を簡素化すると共に、入試のシステム自体を簡素化し、他の部署と連絡を密にとって、業務をスムーズに遂行していきたい。
評価項目⑤	次年度のプログラム改修に関しては適切に業者とのやり取りを行うことができた。回収に当たって不安だった部分もおおむね解消できる見通しが立った。 部署内においては、今年度から配属された部員が2名おり、なおかつ本校での勤務が初年度ということもあり大変忙しい身分ではあったが、様々な業務引継ぎを行うことができ、一人前の情報管理部員として成長することができた。
評価項目⑥	昨年に続き、遠足やイングリッシュキャンプ、国内の研修旅行、オーストラリアのターム留学を実施することができた。さらに、今年度は短期語学研修旅行、オーストラリア語学研修旅行も再開することができた。来年度は、インバウンドの学校交流等について、企画・実施の準備を進めていきたい。
評価項目⑦	黙念で始まり黙念で終わる本校の学校生活において、日常生活ではなかなか設けることの出来ない厳粛・静寂な朝礼の時間を、自己理解の時間として大切に過ごしていた。黙念で心を落ち着け、今日の自分と向き合い集中力を高め、前向きな姿勢で授業に向かうことが出来ていた。
評価項目⑧	図書館利用者が増え、充実した雰囲気となっている。芸術鑑賞会は毎年違う芸風と鑑賞内容の提供しており、中・高一斉の構成でジャズの紹介も含んだプログラムとした。アンケート結果も「聞いたことがなく、楽しめた」という感想が多く、大変好評であった。「鶴の林」の内容についても、生徒の活躍が報告できる場としたい。

事務部

1) 結果

		評価
重点目標	円滑に業務を執行するための基本的な「ハウレンソウ」(報告・連絡・相談)を徹底し、事務部及び各部署において情報伝達漏れによる業務への支障や齟齬をなくすよう努める。	4
評価項目①	毎日行っている事務部の朝会の活性化を図り、各部署及び各職員において抱えている情報をより多く伝達するよう努める。	4
評価項目②	各会議の後、周知が必要と思われる事項は、時間をあけずに部署内に伝達し、情報共有を図る。	4
評価項目③	各々が、些細な作業等であっても、その内容や所在を明らかにし、連絡が途切れることの無いようにする。	4
評価項目④	毎月開いているスタッフミーティング・Coスタッフミーティングを活用して、周知・相談したいことを議題にあげ、意見交換を促進させる。	4

評価項目⑤	銀行集金業務廃止に伴い、現金の取り扱いを少なくする等、法人との連携を強化して運用方法の再検討をする。	4
評価項目⑥	図書館の興味関心・授業利用など教職員と生徒から幅広く意見聴取し、図書資料・雑誌の選定を行うことで生徒の視点に立った読書活動の推進に努める。	4
評価項目⑦	図書館を読解力・思考力を養う場、情報活用能力育成の場として生徒たちが主体的に活動を行えるようサポートし、不読率の改善につながるよう働きかける。	4

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

重点目標の総括	今年度の重点目標が定まった際に、事務の朝会でも職員にむけて発信した。その成果もあり各部署にて意識して「報告」「連絡」「相談」がなされていた。特に「報告」と「連絡」は従前より増えている。各会議の後、業者との協議後に担当者から部署内、或いは全事務職員に発信ができており、錯誤に起因するミスも減ったと感じられる。しかしながら「相談」に関しては不十分な場面も散見された。	
評価項目①	毎朝の事務の朝会が定着しており、初めの頃は職員朝会の伝達くらいであったが、今では各部署各個人が本日の予定を積極的に報告し、皆が周知することで他部署の職員でも自然とカバーできるようになった。	
評価項目②	職員会議、合同会議、企画委員会、総合企画会議、同窓会会議等が行われた翌日には各部署に会議内容や議題に伴う業務依頼等を報告している。	
評価項目③	各部署において、席を外す際には必ず同室の職員に行き先を伝え、所在を明らかにしている。また在席する職員が離席する職員に何時には戻るか確認する場面もあり、突発的な要件が入っても直ぐに対処できている。	
評価項目④	当初、事務長が次回のテーマを決めていたが、次第に各職員から他の意見を聞いてみたいといったテーマが出されるようになったが、まだ一部職員に留まり、今後もっと多くの職員から提供されることを期待したい。	
評価項目⑤	現金入金については法人との連携により、大学に設置されている入金機を活用している。銀行窓口業務については、大学の関係者に依頼する案も提示していただいたが、処理件数が多く、窓口での確認等もあるため月末に出向いている。処理件数、対応時間を減らすため、自動引落やネットバンキング等の使用範囲拡大も検討していきたい。	
評価項目⑥	購入雑誌見直しの実施や授業に即した本の購入など、生徒に寄り添った図書資料の選定を行った結果、リクエスト数・貸出数ともに現時点で昨年度の数を上回ることができた。また、お昼の放送を使った働きかけも読書活動を促進させた。今後も広報活動に力をいれていきたい。	
評価項目⑦	展示企画の開催などで様々なジャンルの本を目にする機会を増やし、直に手に取りやすい環境づくりを心がけた。教職員の協力もあり、大人が本を読む姿勢を見せることができたことが良かった。委員会発信の企画を増やすなど、今後も継続的に本に触れる機会を確保し、読書を習慣づける手助けをしていきたい。	

管理部門

1) 結果

		評価
重点目標	関係部署と連携を図りながら、施策の体系を計画的かつ確実に実行できるよう努める。また、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、基本的な感染症対策を講じながら、できる限り通常の教育活動を実施する。	4.3
評価項目①	国の教育改革・教育行政の動向を踏まえながら、創立100周年に向けて、さらには2030年・2040年に向けて、中・長期の事業計画、ビジョン等を研究し立案する。	4
評価項目②	探究型教育・グローバル教育・ICT教育の実践を推進するため、21世紀型教育推進委員会の活動を支援する。	4
評価項目③	できるだけ早い時期から計画的かつ適切な教員採用を進める。また、次世代リーダーの育成に努める。	5
評価項目④	適切な労務管理を行う。また、研修制度を一層充実させるとともに、「チーム学校」の体制を整え、教員が教育活動に専念できるような学校組織づくりに向けてさらに努力する。	4
評価項目⑤	教務部・入試広報部・事務室等と連携し、準備段階から入試業務を円滑に進める。また、中学入試の出願者数をさらに増やすため、学校説明会の内容を工夫したり、より有効な SNS を利用した情報発信を行うことによって、1名でも多くのリピーターやファンを育てる。	4
評価項目⑥	コロナ禍でこれまで制限されてきた教育活動のうち、生徒の資質・能力の育成に真に必要なものを回復させ、生徒の安全・安心を最優先した上で積極的に実施する。	5

2) 重点目標の総括および各評価目標についてのコメント

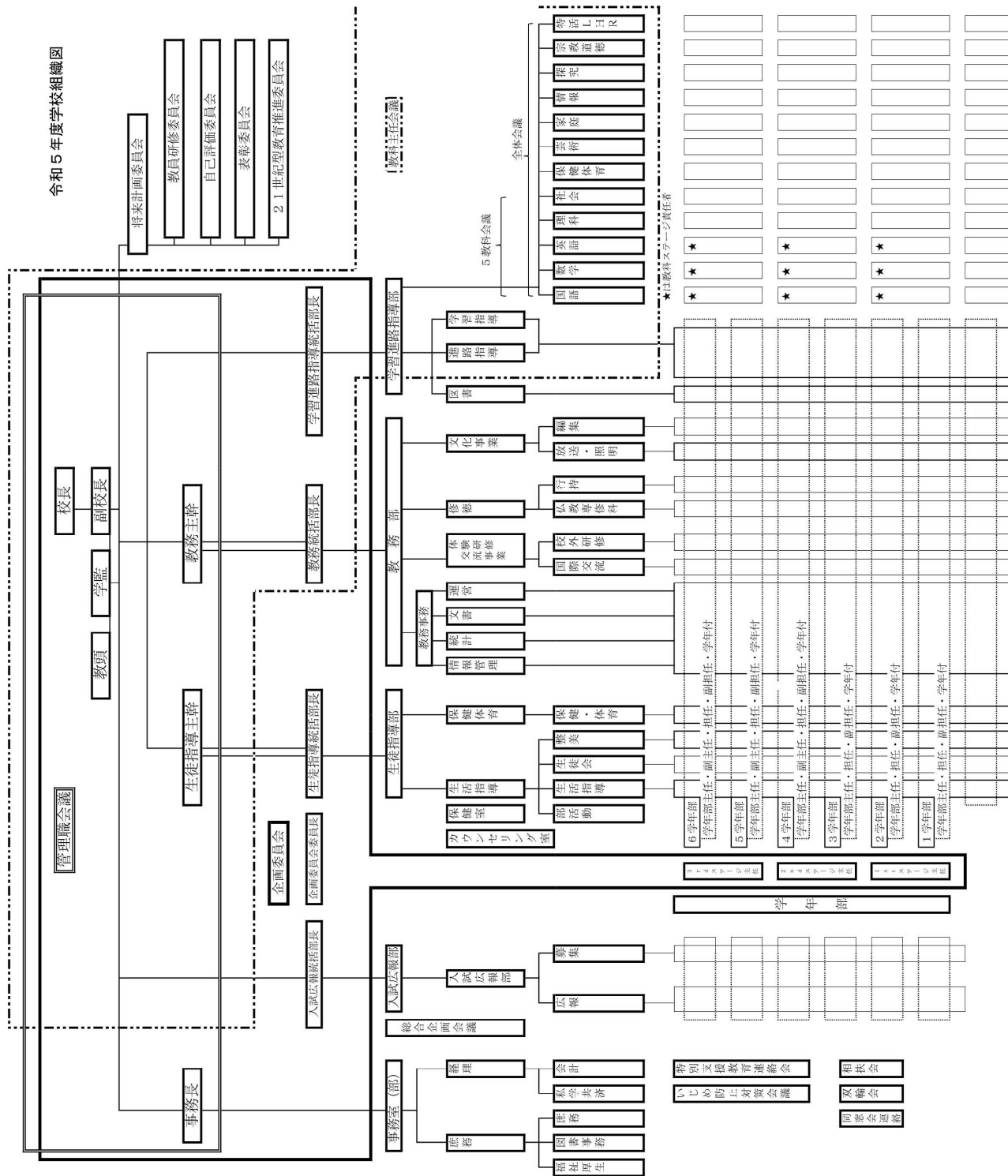
重点目標の総括	創立100周年に向けての準備も含めて施策の体系を再構築し、都度、関係各部署と連携を図りながら、重点施策工程表、教育改革対応工程表等に沿って、工夫して各事業を実行するよう努めた。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行後もコロナやインフルエンザが流行した時期があったが、しっかりと対策を講じながら学校行事を含めたほとんどの教育活動を通常の状態に戻すことができた。
評価項目①	全教職員に対して実施したフォームによるヒアリングの結果を踏まえて、将来計画委員会を中心に「創立100周年を期した次の10ヵ年の中期事業計画【Crane翼プロジェクトⅡ】」を纏め上げた。その後も、夏期校内研修会において2日間にわたってこの事業計画に関する研修を行い、今後の本校が目指す「随所に主となる次世代を育む教育」について教職員間の共通理解を深めることができた。
評価項目②	探究型教育では、今年度ようやく4年「探究基礎」に加えて5年「探究」の授業が開始されたため、昨年度新設された探究科の教員が定期的に集まって、シラバスの共有や研究を進めてきた。グローバル教育では、昨年度3年ぶりに対面で実施したイングリッシュラウンジに今年度も多くの希望者が集まり、ターム留学にも初めて2年続けて複数名の生徒が参加した。さらに、1年のグローバル(グローバル+ローカル)スタディが始まったため、担当部署が中心となって様々な形態の授業について研究がなされ、シラバス構築が進められている。ICT教育では、今年度6つの学年のうち4つ(1～4学年部)で1人1台タブレット端末を導入し成果も出ているので、次年度は計画通り5つの学年(1～5学年部)に拡充した上で、6学年部についても希望者は使用可と

	<p>した。なお、これに伴いWi-Fi環境をさらに整備する必要が生じたため、夏休み中に工事を実施したので、その後は良好な接続状況が続いている。</p>
評価項目③	<p>今年度は3月末に5名の専任教諭が定年等で退職される予定であったため、例年より4ヶ月早く次年度の教員募集を開始し、夏休み前には3教科3名の常勤講師内定に至った。9月以降も、教科ごとの年齢バランス、常勤・非常勤の区別等を熟慮した上で順調に採用計画を進め、新たに6教科8名の教員(専任教諭1名・常勤講師3名・非常勤講師4名)を新規採用することができた。近年、教科によっては教員採用で大変苦戦しているが、今年度は動き出すのがかなり早かったため12月までにはほぼ決定し、3学期には採用前研修も実施した。また、次世代リーダーの育成については、徐々にではあるが近い将来の世代交代を意識しながら、今年度も校務分掌や学年・学級等の配役、指定外部研修への派遣等を実施することができた。キャリアパス制度の導入についても、検討を始めたところである。</p>
評価項目④	<p>今年度も時間外勤務や休日振替の申請・許可、出勤簿の管理を含め、教職員の労務管理については適切な対応、正確な処理を心掛けて実行した。また、年休申請や離任地届については、完全デジタル化することもできた。「チーム学校」の体制づくりについては、大学生チューターや部活動外部コーチを増員して強化を図った。また、教職員がより安心して教育活動等に専念できるようにするため、今年度末から次年度にかけて管理職(校長)との面談を実施しているところである。</p>
評価項目⑤	<p>Instagram(インスタグラム)及びLINE(ライン)による生徒募集活動上の情報発信や、Web出願システムの導入は2年目になるため、関係各部署と連携の上、より効果的で利用しやすくなるよう工夫や改良を行った。また、初めて年度当初から毎回異なるテーマを掲げて中学入試説明会を開催したり、中高入試においてサイト上で入学手続きができるようにするなど、新たな取り組みも実施した。これにより今年度の説明会参加者数は、中学・高校ともに大幅に増えた前年度とほぼ同数(中学は2年続けて1,000名超、高校は前年より約100名増)となり、目標としていた入試の出願者数増に結びつけることができた。</p>
評価項目⑥	<p>コロナの5類移行後、まずはホームベースでの朝礼実施や授業ごとの教室移動など、教科エリア型校舎の運用を昼食場所を除いて元通りにした。また、宿泊を伴う行事である5学年部スタディキャンプや3学年部オーストラリア語学研修旅行も4年ぶりに実施することができた。そのほか、体育祭、光華祭、合唱祭、弁論大会、耐寒参禅会などほとんどの学校行事を、細心の注意を払いかつ万全な準備をした上で、コロナ禍以前の形に戻して開催した。今年度は、コロナ流行等による臨時休校が1日もなかったため、基本的には日々通常の教育活動が行われ、活気ある生徒の姿を随所で見ることもできた。</p>

(6) 資料編

学校組織図	26
職員名表	27
生徒在籍数表	28
部活動加入者人数	29
授業・部活動・教科教室型校舎・進路に関する生徒のアンケート結果	30
授業参観に関する保護者のアンケート結果	33
卒業生の主な合格先	35

令和5年度学校組織図



令和5年度

職員名表

令和5年4月1日～

1	8クラス	4クラス	英	孝	仁	敬	※大河内	小原	* 中田マ
	14名 担任	8名 半勤・半研日	阿部 月	山田 金	野間 水	★大石ト	水	金	木
s	8名	1学年部							
	5名	(中1)							
t	4クラス	4クラス	英	孝	仁	敬	★加藤	※服部	
	6名 大石ノ	6名 半勤・半研日	保田 月	大森 金	志末 木	渡辺コ	水	木	
(低学年)	2学年部	2学年部							
	(中2)	(中2)							

4名	校長 岸本	副校長 今井	学監 森川	教頭 鈴木シ
----	----------	-----------	----------	-----------

8名	主幹 北島 土	主幹 山崎ハ 金	山崎ノ 水	佐々木 土	野田 木	本田 水	田中 木	※佐東 水
学年外	半勤・半研日	4/1～青短	4/1～青短	4/1～青短	4/1～青短			

2	12クラス	3クラス	英	孝	仁		★松川	※若月	* 上野マ
	19名 担任	7名 半勤・半研日	川崎 金	富吉 水	巻島 火		木	火	火
n	12名	3学年部							
	6名	(中3)							
(中学年)	9クラス	9クラス	英	孝	仁	敬	貞	正	恭
	12名 長野 金	12名 半勤・半研日	村上 火	飯田 金	皆川 金	原 火	河野 木	中田イ 月	芝田 金
d	4学年部	4学年部							
	(高1)	(高1)							

礼	遠山 木	伊藤ユ 月	※西村 木	※福田 火
---	------	-------	-------	-------

3	13クラス	7クラス	英	孝	仁	敬	貞	正	恭
	20名 担任	12名 半勤・半研日	梅沢 火	鶴田 水	宮川 金	小泉 月	矢野 月	伊藤ナ 水	柳原 火
r	13名	5学年部							
	6名	(高2)							
(高学年)	6クラス	6クラス	英	孝	仁	敬	貞	正	
	7名 浜田 水	7名 半勤・半研日	福嶋 金	鈴木ケ 木	井上 火	森コ 水	★立田 水	浅香 土	
d	6学年部	6学年部							
	(高3)	(高3)							

永澤 金	※上野七 水	※弓削 火	* 川野 金
桂林 金		※浅中 火	

中等クラス数	11クラス
高校クラス数	22クラス
合計	33クラス
中等教員数	23(3)名
高校教員数	38(6)名
合計	61(9)名
() 内 常勤講師(内数)	
専任教員数	52名
常勤講師数	9名
非常勤講師数	26名
特別非常勤講師	1名
事務職員数	4名
事務職員数(常勤)	4名
事務職員数(非常勤)	3名
合計(管理職を除く)	99名

26名	高田 国	廣井 国	上田ノ 社	鹿住 社	塚原 社	佐藤 社	小又 数	森シ 数	藤原 数	田丸 理	水野 理	藤井 理	岩谷 理
1名	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金	月火水金
出校日													
非常勤講師													
1名	特別非常勤講師												

1名	出校日	特別非常勤講師
----	-----	---------

11名	事務専任	事務専任	事務非常勤
半勤・半研日	上田ヒ	亀山 金	長内 木
事務	事務専任	事務非常勤	事務非常勤
	山田ヒ	長内 木	土屋 火
	山田ヒ	長内 木	土屋 火
	山田ヒ	長内 木	土屋 火

2023年度 生徒在籍数表
4月1日 現在

鶴見大学附属中学校・高等学校
教務部統計係

○学年部主任
△学年部副主任

組	中1 (1学年部)		中2 (2学年部)		中3 (3学年部)	
	担任	在籍数 男 女 計	担任	在籍数 男 女 計	担任	在籍数 男 女 計
英	阿部	21 15 36	保田	16 10 26	川崎	14 13 27
孝	山田	21 15 36	大森	16 11 27	富吉	20 10 30
仁	野間	21 11 32	志未	22 12 34	巻島	20 9 29
敬	○大石ト	20 12 32	渡辺	22 12 34		
計	4	83 53 136	4	76 45 121	3	54 32 86

英・孝組は進学クラス
英・孝組は進学クラス
孝・仁組は難関進学クラス
仁・敬組は難関進学クラス
○加藤子(2学年部主任)
英組は総合進学クラス
孝・仁組は特進クラス
○松川(3学年部主任)

組	高1 (4学年部)		高2 (5学年部)		高3 (6学年部)	
	担任	在籍数 男 女 計	担任	在籍数 男 女 計	担任	在籍数 男 女 計
英	△村上	19 7 26	○梅沢	22 11 33	福嶋	15 16 31
孝	飯田	18 8 26	鶴田	23 10 33	鈴木ケ	17 17 34
仁	皆川	19 17 36	宮川	21 12 33	井上	17 17 34
敬	原	18 17 35	小泉	23 9 32	森コ	17 17 34
貞	河野	18 17 35	△矢野	21 11 32	○立田	21 15 36
正	中田イ	17 10 27	伊藤ナ	21 10 31	△浅香	22 14 36
恭	芝田	17 10 27	柳原	21 10 31		
愛	竹間	14 10 24				
礼	遠山	14 10 24				
計	9	154 106 260	7	152 73 225	6	109 96 205

○伊藤工(4学年部主任)

コース	高1 (4学年部)		高2 (5学年部)		高3 (6学年部)	
	クラス数	在籍数 男 女 計	コース	在籍数 男 女 計	コース	在籍数 男 女 計
総合進学	5	92 66 158	総合進学	4 89 42 131	総合進学	4 66 67 133
特進	4	62 40 102	特進	3 63 31 94	特進	2 43 29 72
計	9	154 106 260	計	7 152 73 225	計	6 109 96 205

学校	学校全体	
	クラス数	在籍数 男 女 計
中学校	11	213 130 343
高等学校	22	415 275 690
合計	33	628 405 1033

()内、休学者数(内数)

コース	高校全体	
	クラス数	在籍数 男 女 計
総合進学	13	247 175 422
特進	9	168 100 268
計	22	415 275 690

■ 令和5年度 部活動加入状況 ■

文化部 〈主任：永澤〉

部活動名	顧問	中学	高校	合計
数学部	矢野	3	9	12
洋裁部	大森	8	5	13
JRC国際ボランティア部	井上	2	7	9
パソコン部	永澤	10	13	23
英語部	伊藤 ^ナ	1	3	4
自然科学部	宮川 長野	16	10	26
写真部	遠山	3	4	7
茶道部	巻島	10	24	34
書道部	中田 ^マ 中川	3	1	4
調理部	小原 上野 ^マ	8	19	27
ダンス部	立田 (伊藤 ^ナ)	11	14	25
アンサンブルクレイン部	浅中 和知 (野田)	4	8	12
吹奏楽部	野田 梅沢 若月 田中 ^リ 河合	14	30	44
美術部	村上 飯村 小林	3	15	18
放送部	原 忠末	2	10	12
漫画研究部	松川	7	7	14
囲碁・将棋部	浅香 浜田	3	12	15
社会科部	川野	4	3	7
鉄道研究部	福嶋	8	4	12

体育部 〈主任：加藤^ナ〉

部活動名	顧問	中学		高校		合計
		男子	女子	男子	女子	
テニス部	山崎 ^ノ 柳原 小泉 (北島)	19	11	22	11	63
バレーボール部	保田 富吉 野間 服部 (山崎 ^ハ) 宅島	8	2	13	11	34
バドミントン部	桂林 阿部 弓削 福田 (忠末) 石田	15	10	27	22	74
女子バスケットボール部	大石 ^ノ 中田 ^イ 加藤 ^ナ 渡邊 ^ナ 安達		12		4	16
男子バスケットボール部	加藤 ^ナ 大石 ^ト 加藤 ^イ 守田	21		20	1	42
ソフトボール部	渡辺 ^コ 西村 安藤		1		1	2
バトン部	飯田 川崎		11		13	24
陸上競技部	芝田 皆川 上野 ^ヒ	6	2	23	4	35
高校硬式野球部	森 ^コ 伊藤 ^ユ 河野 竹間 (西村) 永井 加藤 ^マ			18	2	20
高校サッカー部	鈴木 ^ケ 鶴田 佐々木 辻川 有馬			18	1	19
中学サッカー部	山田 大河内 渡邊 ^ケ	28	0			28

■斜字体：コーチ・外部指導者（非常勤講師を含む）

■（ ）内：兼務、補佐等

■今年度活動している団体です。数字は5月2日現在の在籍数です。なお、複数の部に在籍（「兼部」）している生徒については、第一登録の部活動（「第一部活」）のみ計上しています。

令和5年度 授業・部活等に関する生徒のアンケート結果

質問事項

設問1 (国語・社会・数学・理科・英語について)

- ア) この教科の授業について、満足度はどうですか。
・満足…5 少し満足…4 普通…3 少し不満…2 不満…1
- イ) 4月当初よりもこの教科の学力は上がったと思いますか。
・向上…5 少し向上…4 変わらない…3 少し低下…2 低下…1
- ウ) この教科の授業に臨むにあたり、予習や復習の準備はどうですか。
・充分…5 大体充分…4 普通…3 あまり充分でない…2 不十分…1

設問2 (教科；保健体育、芸術、家庭、探求)

- ア) この教科の授業について、満足度はどうですか。
・満足…5 少し満足…4 普通…3 少し不満…2 不満…1
- イ) この教科を通し、社会全体に対して、その方面への興味は向上しましたか。
・向上…5 少し向上…4 変わらない…3 少し低下…2 低下…1

設問3 (部・クラブ)

- ア) 所属している部活動は次のどれですか。
・体育部…2 文化部…1 現在所属していない…0
- イ) 部活動の活動日は年間を通して、週当たり何日ですか。
・5日～7日…3 4日～3日…2 2日～1日…1 現在所属していない…0
- ウ) このクラブに所属していて満足ですか。
・満足…5 少し満足…4 普通…3 少し不満…2 不満…1 現在所属していない…0
- エ) 来年もこのクラブを継続するつもりですか。
・継続する…5 継続するつもり…4 わからない…3 継続しないつもり…2 継続しない…1 現在所属していない…0

設問4 (教科教室型校舎)

- 本校の教科エリア型・ホームベース型校舎(教科教室型校舎)についてどう思いますか。
・よい…5 大体よい…4 どちらともいえない…3 あまりよくない…2 よくない…1

設問5 (進路関係；高3のみ回答)

- ア) 卒業後の進路、または、希望する進路はどれですか。
・進学…1 就職…0
- イ) 進学する学校、または、したい学校はどれですか。(就職は0を記載)
・4(6)年制大学…4 短期大学…3 専門学校…2 文部科学省管轄外の学校…1 就職…0
- ウ) 進学の形態は次のうちのどれですか。(就職は0を記載)
・一般選抜…4 学校推薦型選抜(指定校)…3 学校推薦型選抜(公募)…2 総合型選抜…1 就職…0
- エ) 進路結果、または、今それを目指している進路目標に満足していますか。
・満足…5 少し満足…4 普通…3 少し不満…2 不満…1
- オ) 進路結果に対しての準備状況はどうでしたか。または、現在目指している進路目標への準備はどうですか。
・充分…5 大体充分…4 普通…3 あまり充分でない…2 不十分…1

結果 (%表示) * 小数点 2 位以下を四捨五入したため、100パーセントにならない項目があります。

設問 1 (国・社・数・理・英)

【中学 1 年】

	国語			社会			数学			理科			英語		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
5	23.7%	20.1%	4.8%	64.8%	40.8%	16.8%	45.1%	28.1%	14.5%	27.2%	20.9%	4.4%	32.7%	23.5%	11.8%
4	32.5%	42.6%	23.7%	18.4%	36.0%	28.8%	22.2%	30.1%	25.7%	30.0%	32.5%	23.3%	22.8%	27.2%	22.5%
3	37.8%	28.5%	43.0%	13.6%	18.4%	36.8%	27.5%	21.6%	38.8%	32.8%	32.1%	47.0%	29.0%	39.0%	40.2%
2	6.0%	6.0%	23.7%	3.2%	4.0%	13.6%	3.9%	12.4%	17.1%	8.4%	9.6%	18.9%	9.2%	7.4%	17.3%
1	0.0%	2.8%	4.8%	0.0%	0.8%	4.0%	1.3%	7.8%	3.9%	1.6%	4.8%	6.4%	6.3%	2.9%	8.1%

【中学 2 年】

	国語			社会			数学			理科			英語		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
5	25.9%	12.9%	4.9%	33.9%	17.0%	9.8%	25.0%	17.6%	8.6%	19.3%	15.7%	4.9%	26.7%	18.4%	7.5%
4	24.1%	35.3%	11.6%	23.2%	25.9%	11.6%	19.3%	29.9%	14.8%	21.1%	33.6%	15.2%	17.5%	19.2%	15.5%
3	31.7%	30.8%	52.2%	30.4%	39.3%	57.1%	33.2%	32.0%	50.0%	43.5%	34.5%	59.2%	35.0%	46.0%	54.0%
2	5.4%	10.7%	16.5%	9.8%	12.5%	13.4%	9.8%	8.6%	11.9%	9.9%	13.0%	13.0%	11.3%	11.3%	13.0%
1	3.1%	0.4%	4.9%	2.7%	5.4%	8.0%	3.7%	2.9%	5.7%	6.3%	3.1%	7.6%	9.6%	5.0%	10.0%

【中学 3 年】

	国語			社会			数学			理科			英語		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
5	11.3%	4.7%	2.8%	21.3%	10.7%	13.7%	12.0%	8.0%	4.8%	13.3%	6.7%	4.1%	22.0%	10.7%	6.2%
4	20.7%	29.3%	12.4%	29.3%	34.7%	9.6%	19.3%	25.3%	13.7%	24.0%	29.3%	14.4%	23.3%	22.7%	15.8%
3	40.7%	39.3%	57.2%	38.7%	38.7%	54.8%	48.0%	46.0%	58.2%	44.0%	50.7%	58.2%	36.7%	46.0%	54.8%
2	16.0%	14.0%	11.7%	5.3%	6.7%	15.1%	12.0%	12.0%	13.7%	9.3%	7.3%	13.7%	10.0%	11.3%	12.3%
1	11.3%	12.7%	15.9%	5.3%	9.3%	6.8%	8.7%	8.7%	9.6%	9.3%	6.0%	9.6%	8.0%	9.3%	11.0%

【高校 1 年】

	国語			社会			数学			理科			英語		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
5	27.5%	14.6%	4.7%	22.5%	13.8%	7.0%	26.5%	19.9%	10.4%	32.3%	19.6%	7.8%	25.0%	11.2%	8.5%
4	25.6%	28.0%	9.7%	25.0%	33.1%	12.3%	26.9%	26.9%	17.8%	28.8%	31.8%	12.3%	23.3%	30.3%	13.6%
3	37.3%	43.0%	48.7%	38.8%	38.8%	50.6%	35.0%	37.5%	48.3%	33.8%	38.3%	53.7%	35.0%	43.6%	49.3%
2	5.5%	9.5%	20.8%	10.4%	8.3%	17.8%	6.8%	9.5%	14.6%	3.7%	7.1%	16.1%	8.7%	8.9%	16.6%
1	4.0%	4.9%	16.1%	3.4%	6.1%	12.3%	4.9%	6.1%	8.9%	1.4%	3.2%	10.2%	8.1%	5.9%	12.1%

【高校 2 年】

	国語			社会			数学			理科			英語		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
5	31.3%	14.2%	6.2%	31.7%	15.4%	7.5%	27.2%	20.4%	11.6%	35.9%	19.7%	12.0%	24.0%	12.7%	7.6%
4	28.4%	32.7%	14.5%	30.1%	34.3%	17.2%	31.4%	35.8%	25.7%	33.3%	41.0%	17.1%	27.7%	36.7%	25.6%
3	32.7%	45.5%	47.2%	28.9%	42.4%	52.4%	31.4%	34.5%	47.0%	28.2%	32.5%	55.6%	30.5%	40.4%	48.5%
2	5.2%	5.2%	22.5%	4.9%	4.7%	13.3%	6.6%	6.2%	9.5%	2.6%	5.1%	8.5%	8.5%	6.5%	10.6%
1	2.4%	2.4%	9.7%	4.4%	3.3%	9.6%	3.5%	3.1%	6.2%	0.0%	1.7%	6.8%	9.2%	3.7%	7.6%

【高校 3 年】

	国語			社会			数学			理科			英語		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
5	29.5%	17.0%	11.6%	51.6%	36.6%	25.8%	42.9%	34.2%	21.5%	53.9%	42.9%	20.2%	32.1%	24.1%	17.5%
4	25.0%	36.7%	21.6%	21.5%	33.3%	31.2%	20.9%	38.3%	20.5%	21.6%	35.1%	26.8%	26.2%	33.8%	21.8%
3	35.6%	37.0%	44.5%	20.4%	25.8%	33.3%	26.0%	20.9%	41.5%	19.8%	21.4%	38.1%	33.4%	36.8%	47.1%
2	4.2%	4.8%	9.0%	4.3%	2.2%	2.2%	5.1%	2.6%	8.2%	4.8%	0.6%	8.3%	4.4%	2.5%	7.0%
1	5.8%	4.5%	13.2%	2.2%	2.2%	7.5%	2.0%	1.0%	5.1%	0.0%	0.0%	6.5%	3.8%	2.7%	6.6%

設問2 (保体・芸術・家庭・探求)

【中学1年】

	保体		芸術		技術家庭	
	ア	イ	ア	イ	ア	イ
5	44.0%	17.8%	42.3%	22.6%	30.9%	17.1%
4	27.8%	34.4%	26.2%	31.5%	32.5%	35.8%
3	25.4%	44.9%	27.0%	43.5%	32.5%	42.3%
2	2.0%	2.0%	3.2%	0.8%	3.3%	4.1%
1	0.8%	0.8%	1.2%	1.6%	0.8%	0.8%

【中学2年】

	保体		芸術		技術家庭	
	ア	イ	ア	イ	ア	イ
5	29.0%	15.1%	20.1%	9.6%	16.1%	10.7%
4	23.7%	28.4%	25.1%	17.7%	29.5%	25.9%
3	36.6%	51.6%	45.8%	66.7%	47.3%	60.7%
2	5.4%	2.7%	6.6%	3.6%	6.3%	1.8%
1	5.4%	2.2%	2.4%	2.4%	0.9%	0.9%

【中学3年】

	保体		芸術		技術家庭	
	ア	イ	ア	イ	ア	イ
5	34.7%	17.3%	24.0%	12.0%	18.7%	8.0%
4	21.3%	24.0%	21.3%	23.3%	22.7%	18.7%
3	30.7%	46.0%	46.7%	56.0%	48.0%	56.0%
2	6.0%	5.3%	3.3%	2.7%	6.7%	9.3%
1	7.3%	7.3%	4.7%	6.0%	4.0%	8.0%

【高校1年】

	保体		芸術		探究基礎	
	ア	イ	ア	イ	ア	イ
5	30.6%	10.6%	35.3%	18.9%	23.8%	13.2%
4	24.6%	18.8%	26.5%	23.1%	25.1%	23.8%
3	31.3%	59.8%	33.6%	53.8%	41.3%	57.9%
2	3.2%	3.0%	1.7%	0.8%	4.7%	1.3%
1	5.4%	2.8%	2.9%	3.4%	5.1%	3.8%

【高校2年】

	保体		家庭		情報		探究	
	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ
5	35.9%	14.6%	28.8%	13.7%	27.8%	14.2%	19.5%	11.0%
4	33.3%	32.9%	31.6%	30.7%	30.7%	29.7%	32.9%	28.6%
3	28.9%	50.5%	32.5%	51.4%	32.5%	50.0%	38.1%	52.4%
2	0.9%	1.4%	4.2%	0.9%	5.2%	1.9%	6.7%	4.8%
1	0.9%	0.7%	2.8%	3.3%	3.8%	4.2%	2.9%	3.3%

【高校3年】

	保体	
	ア	イ
5	44.0%	28.6%
4	25.7%	19.4%
3	22.9%	46.3%
2	2.3%	1.1%
1	5.1%	4.6%

設問3 (部活動) * 網掛け部分は回答にはない項目のため、数値がある場合は誤回答となります。

【中学1年】

	ア	イ	ウ	エ
	5			50.8%
4			21.8%	30.6%
3		35.5%	10.5%	11.3%
2	50.0%	30.6%	5.6%	4.0%
1	38.7%	21.8%	0.8%	1.6%
0	10.5%	10.5%	10.5%	10.5%

【中学2年】

	ア	イ	ウ	エ
	5			40.9%
4			13.6%	19.1%
3		33.6%	20.0%	19.1%
2	41.4%	30.9%	8.2%	2.7%
1	44.1%	20.9%	3.6%	2.7%
0	12.6%	14.5%	13.6%	13.6%

【中学3年】

	ア	イ	ウ	エ
	5			15.9%
4			10.1%	24.0%
3		26.7%	20.3%	13.3%
2	27.3%	22.7%	10.1%	8.0%
1	35.1%	12.0%	11.6%	5.3%
0	28.6%	32.0%	31.9%	30.7%

【高校1年】

	ア	イ	ウ	エ
	5			17.6%
4			15.4%	7.7%
3		23.5%	4.1%	5.9%
2	28.1%	17.2%	5.4%	0.9%
1	31.7%	24.9%	24.0%	24.0%
0	7.1%	6.8%	23.5%	26.7%

【高校2年】

	ア	イ	ウ	エ
	5			5.9%
4			1.5%	2.5%
3		26.5%	2.0%	31.5%
2	5.3%	2.8%	33.5%	18.7%
1	3.1%	2.5%	36.0%	20.7%
0	47.5%	47.5%	21.2%	21.2%

【高校3年】

	ア	イ	ウ	エ
	5			29.7%
4			7.0%	2.0%
3		16.7%	6.3%	5.4%
2	17.2%	16.0%	0.6%	2.7%
1	28.2%	12.2%	3.8%	13.6%
0	52.8%	53.8%	52.5%	65.3%

設問4 (教科教室型校舎)

【中学1年】

5	29.8%
4	42.1%
3	17.4%
2	4.1%
1	6.6%

【中学2年】

5	22.2%
4	17.6%
3	34.3%
2	10.2%
1	15.7%

【中学3年】

5	8.1%
4	21.6%
3	20.3%
2	5.4%
1	44.6%

【高校1年】

5	7.1%
4	14.2%
3	19.5%
2	24.8%
1	34.5%

【高校2年】

5	46.5%
4	15.7%
3	20.9%
2	7.6%
1	9.3%

【高校3年】

5	15.8%
4	26.0%
3	21.5%
2	10.2%
1	26.6%

設問5 (高3進路関係) * 網掛け部分は回答にはない項目のため、数値がある場合は誤回答となります。

	ア	イ	ウ	エ	オ
5				60.0%	24.9%
4		89.0%	47.8%	16.1%	24.3%
3		2.2%	32.2%	18.9%	27.1%
2		6.1%	2.8%	2.8%	17.7%
1	98.9%	1.7%	16.1%	2.2%	6.1%
0	0.6%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%

授業参観に関する保護者のアンケート結果

授業参観（6月24日）アンケート結果

1. 参観保護者数

学年	1 学年部 (中1学年)		2 学年部 (中2学年)		3 学年部 (中3学年)		4 学年部 (高1学年)		5 学年部 (高2学年)		6 学年部 (高3学年)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
在籍数	136人		121人		86人		260人		225人		204人	
参加者人数	92人		116人		65人		161人		111人		88人	
アンケート回答者	79人		62人		23人		82人		45人		31人	
回収率	85.9%		53.4%		35.4%		50.9%		40.5%		35.2%	

2. アンケート質問事項

その他 (学年不明・複数学年)	その他 (学年不明・複数学年)
授業の雰囲気はいかがでしたか。	0人
生徒の授業での集中度はいかがでしたか。	11人
休み時間などの授業外の生徒の生活はいかがでしたか。	11人
お子さんご自宅での予習・復習の様子はいかがでしたか。	100.0%
ご家庭での学習活動と本校の授業との関係はいかがでしたか。	
授業参観全体の様子はいかがでしたか。	

3. アンケート結果 5: 大変良い 4: 少し良い 3: 普通 2: 少し悪い 1: 大変悪い

	1 学年部 (中1学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	34人	27人	14人	3人	0人	1人	4.2点
②	24人	29人	17人	8人	0人	1人	3.9点
③	16人	25人	32人	1人	0人	5人	3.8点
④	9人	19人	25人	17人	8人	1人	3.1点
⑤	16人	21人	35人	3人	2人	2人	3.6点
⑥	26人	30人	19人	3人	0人	1人	4.0点

	2 学年部 (中2学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	26人	22人	13人	1人	0人	0人	4.2点
②	24人	19人	17人	2人	0人	0人	4.0点
③	11人	16人	32人	2人	0人	1人	3.6点
④	1人	11人	27人	18人	5人	0人	2.8点
⑤	6人	22人	27人	5人	1人	1人	3.4点
⑥	23人	22人	17人	0人	0人	0人	4.1点

	3 学年部 (中3学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	8人	6人	9人	0人	0人	0人	4.0点
②	6人	5人	10人	1人	1人	0人	3.6点
③	7人	5人	9人	1人	0人	1人	3.8点
④	0人	3人	10人	6人	4人	0人	2.5点
⑤	2人	8人	8人	3人	2人	0人	3.2点
⑥	7人	7人	9人	0人	0人	0人	3.9点

	4 学年部 (高1学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	34人	22人	23人	2人	0人	1人	4.1点
②	25人	22人	29人	5人	0人	1人	3.8点
③	14人	18人	45人	3人	1人	1人	3.5点
④	5人	17人	31人	23人	5人	1人	2.9点
⑤	5人	22人	47人	6人	1人	1人	3.3点
⑥	22人	29人	28人	2人	0人	1人	3.9点

	5 学年部 (高2学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	23人	13人	9人	0人	0人	0人	4.3点
②	21人	10人	12人	2人	0人	0人	4.1点
③	10人	10人	21人	0人	0人	4人	3.7点
④	3人	7人	16人	14人	5人	0人	2.8点
⑤	7人	11人	25人	1人	0人	1人	3.5点
⑥	18人	16人	11人	0人	0人	0人	4.2点

	6 学年部 (高3学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	16人	7人	6人	2人	0人	0人	4.2点
②	11人	12人	6人	2人	0人	0人	4.0点
③	10人	7人	12人	0人	0人	2人	3.9点
④	8人	10人	10人	3人	0人	0人	3.7点
⑤	6人	10人	13人	2人	0人	0人	3.6点
⑥	12人	11人	7人	1人	0人	0人	4.1点

4. 前回アンケート結果 (2022年10月)

	その他 (学年不明・複数学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	4人	4人	1人	0人	0人	2人	4.3点
②	0人	6人	3人	0人	0人	2人	3.7点
③	1人	3人	5人	0人	0人	2人	3.6点
④	0人	1人	4人	3人	1人	2人	2.6点
⑤	0人	4人	4人	1人	0人	2人	3.3点
⑥	3人	4人	2人	0人	0人	2人	4.1点

5. 前年度アンケート結果 (2022年6月)

	1 学年部 (中1学年)		2 学年部 (中2学年)		3 学年部 (中3学年)		4 学年部 (高1学年)		5 学年部 (高2学年)		6 学年部 (高3学年)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	4.3点		4.1点		3.9点		4.1点		3.8点		3.8点	
②	3.8点		4.1点		3.6点		3.6点		3.4点		3.4点	
③	3.8点		3.7点		3.6点		3.8点		3.7点		3.7点	
④	2.8点		2.9点		2.9点		2.9点		2.9点		2.9点	
⑤	3.6点		3.6点		3.2点		3.5点		3.4点		3.4点	
⑥	4.3点		4.2点		3.9点		4.1点		4.0点		4.0点	

	1 学年部 (中1学年)		2 学年部 (中2学年)		3 学年部 (中3学年)		4 学年部 (高1学年)		5 学年部 (高2学年)		6 学年部 (高3学年)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①	4.3点		3.8点		3.8点		4.3点		4.0点		4.3点	
②	4.1点		3.7点		3.6点		4.1点		4.0点		4.3点	
③	3.9点		3.9点		3.8点		4.0点		3.7点		3.7点	
④	3.1点		2.8点		2.9点		2.9点		2.9点		3.3点	
⑤	3.6点		3.3点		3.3点		3.4点		3.2点		3.4点	
⑥	4.2点		3.9点		3.9点		4.2点		4.0点		4.2点	

授業参観（10月30日）アンケート結果

1. 参観保護者数

学年	1 学年部 (中1学年)	2 学年部 (中2学年)	3 学年部 (中3学年)	4 学年部 (高1学年)	5 学年部 (高2学年)	6 学年部 (高3学年)
在籍数	135 人	121 人	86 人	257 人	223 人	203 人
参加者人数	84 人	62 人	35 人	77 人	36 人	40 人
アンケート回答者	61 人	43 人	22 人	57 人	22 人	21 人
回収率	72.6 %	69.4 %	62.9 %	74.0 %	61.1 %	52.5 %

その他 (学年不明・複数学年)
人
13 人
13 人
100.0 %

2. アンケート質問事項

- ① 授業の雰囲気はいかがでしたか。
- ② 生徒の授業での集中度はいかがでしたか。
- ③ 休み時間などの授業外の生徒の生活はいかがでしたか。
- ④ お子さんのご自宅での予習・復習のようすはいかがでしたか。
- ⑤ ご家庭での学習活動と本校の授業との関係はいかがでしたか。
- ⑥ 授業参観全体の様子はいかがでしたか。

3. アンケート結果 5：大変良い 4：少し良い 3：普通 2：少し悪い 1：大変悪い

	1 学年部 (中1学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	22 人	22 人	11 人	6 人	0 人	0 人	4.0 点
②	18 人	13 人	20 人	10 人	0 人	0 人	3.6 点
③	15 人	18 人	25 人	0 人	0 人	3 人	3.8 点
④	10 人	11 人	20 人	14 人	6 人	0 人	3.1 点
⑤	11 人	24 人	17 人	8 人	1 人	0 人	3.6 点
⑥	21 人	21 人	18 人	1 人	0 人	0 人	4.0 点

	2 学年部 (中2学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	17 人	13 人	12 人	1 人	0 人	0 人	4.1 点
②	10 人	11 人	11 人	11 人	0 人	0 人	3.5 点
③	11 人	10 人	17 人	0 人	0 人	5 人	3.8 点
④	4 人	7 人	16 人	13 人	3 人	0 人	2.9 点
⑤	5 人	12 人	16 人	7 人	1 人	2 人	3.3 点
⑥	16 人	16 人	9 人	2 人	0 人	0 人	4.1 点

	3 学年部 (中3学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	9 人	8 人	4 人	1 人	0 人	0 人	4.1 点
②	8 人	9 人	3 人	2 人	0 人	0 人	4.0 点
③	4 人	5 人	12 人	0 人	0 人	1 人	3.6 点
④	2 人	10 人	3 人	5 人	2 人	0 人	3.2 点
⑤	3 人	10 人	7 人	1 人	0 人	1 人	3.7 点
⑥	8 人	8 人	6 人	0 人	0 人	0 人	4.1 点

	4 学年部 (高1学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	13 人	18 人	22 人	3 人	0 人	1 人	3.7 点
②	7 人	15 人	20 人	14 人	0 人	1 人	3.3 点
③	11 人	14 人	27 人	1 人	0 人	4 人	3.7 点
④	3 人	8 人	23 人	19 人	3 人	1 人	2.8 点
⑤	6 人	10 人	32 人	4 人	2 人	3 人	3.3 点
⑥	9 人	17 人	30 人	0 人	0 人	1 人	3.6 点

	5 学年部 (高2学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	8 人	8 人	5 人	0 人	1 人	0 人	4.0 点
②	7 人	3 人	10 人	2 人	0 人	0 人	3.7 点
③	6 人	4 人	11 人	1 人	0 人	0 人	3.7 点
④	0 人	2 人	14 人	5 人	1 人	0 人	2.8 点
⑤	4 人	5 人	9 人	4 人	0 人	0 人	3.4 点
⑥	9 人	4 人	8 人	1 人	0 人	0 人	4.0 点

	6 学年部 (高3学年)					平均	
	5	4	3	2	1		未回答
①	7 人	7 人	7 人	0 人	0 人	0 人	4.0 点
②	4 人	3 人	12 人	2 人	0 人	0 人	3.4 点
③	5 人	7 人	7 人	0 人	0 人	2 人	3.9 点
④	0 人	7 人	10 人	3 人	1 人	0 人	3.1 点
⑤	1 人	9 人	11 人	0 人	0 人	0 人	3.5 点
⑥	4 人	12 人	5 人	0 人	0 人	0 人	4.0 点

4. 前回アンケート結果（2023年6月）

	1 学年部 (中1学年)					平均
	5	4	3	2	1	
①	4.2 点	4.2 点	4.0 点	4.1 点	4.3 点	4.2 点
②	3.9 点	4.0 点	3.6 点	3.8 点	4.1 点	4.0 点
③	3.8 点	3.6 点	3.8 点	3.5 点	3.7 点	3.9 点
④	3.1 点	2.8 点	2.5 点	2.9 点	2.8 点	3.7 点
⑤	3.6 点	3.4 点	3.2 点	3.3 点	3.5 点	3.6 点
⑥	4.0 点	4.1 点	3.9 点	3.9 点	4.2 点	4.1 点

5. 前年度アンケート結果（2022年10月）

	1 学年部 (中1学年)					平均
	5	4	3	2	1	
①	4.3 点	4.1 点	3.9 点	4.1 点	3.8 点	4.3 点
②	3.8 点	4.1 点	3.6 点	3.6 点	3.4 点	4.2 点
③	3.8 点	3.7 点	3.6 点	3.8 点	3.7 点	4.2 点
④	2.8 点	2.9 点	2.9 点	2.9 点	3.3 点	3.3 点
⑤	3.6 点	3.6 点	3.2 点	3.5 点	3.4 点	4.3 点
⑥	4.3 点	4.2 点	3.9 点	4.1 点	4.0 点	4.2 点

主な合格先の推移(過去5年間)

2024/4/8 判明分

大学名\入試年度		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	現役生		過年度生		不明
							内進生	高入生	内進生	高入生	
国公立	茨城大学		1								
	宇都宮大学	1									
	千葉大学				1						
	筑波大学				1						
	電気通信大学	1									
	東京海洋大学		1								
	東京外国語大学					2		2			
	東京学芸大学	1				1	1				
	東京農工大学					1	1				
	横浜国立大学	2	3								
	山梨大学					1		1			
	琉球大学					1	1				
	神奈川県立保健福祉大学			2	1						
	静岡県立大学		1								
横浜国立大学				1	2	1	1				
早慶上理	早稲田大学	1	2	1	2	11	5	4			2
	慶應義塾大学	1	2		3	1	1				
	上智大学	1	2		1	5	3	2			
	東京理科大学		6		1	2	2				
G・MARCH	学習院大学	2	1	4	2	3	2		1		
	明治大学	8	6	3	17	13	10	2	1		
	青山学院大学	6	4	5	5	11	7	2		2	
	立教大学	2	7	1	2	8	6	2			
	中央大学	6	7	3	8	11	6	3	2		
	法政大学	4	12	4	14	16	10	6			
成蹊・成城・明学 獨協・國學院・武蔵	成蹊大学	3		2	3	1		1			
	成城大学	4	6	2	2						
	明治学院大学	2	2	2	12	12	11	1			
	獨協大学		1		1	2	1	1			
	國學院大学	6	7	2	4	7	5	1	1		
	武蔵大学	1			2	1	1				
日東駒専	日本大学	27	19	14	21	20	5	12	2	1	
	東洋大学	8	9	7	8	19	16	2	1		
	駒澤大学	8	10	6	11	6	5	1			
	専修大学	7	12	2	10	14	11	3			
大東(東)亜帝国	大東文化大学		1			4	4				
	東海大学	5	16	14	8	22	12	10			
	亜細亜大学	1	5	3							
	帝京大学	12	12	11	5	5	3	2			
	国土館大学	6	5	1	5	2		2			
東京・神奈川地区	桜美林大学	5	8	2	4	2	2				
	神奈川大学	36	21	13	26	45	21	24			
	関東学院大学	22	15	13	23	26	20	6			
	北里大学	2	7	4	3	2	2				
	昭和大学	2	3		2	2	1	1			
	玉川大学	3	8	5	8	4	3	1			

主な合格先の推移(過去5年間)

2024/4/8 判明分

大学名\入試年度		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	現役生		過年度生		不明	
							内進生	高入生	内進生	高入生		
女子大	跡見学園女子大学			1								
	日本女子大学			2	1							
	大妻女子大学		1	1		3	2	1				
	学習院女子大学	2			1							
	鎌倉女子大学	7	6	1	1	4	1	3				
	共立女子大学			1								
	駒沢女子大学		1	2								
	相模女子大学	9	3		1	1	1					
	実践女子大学	1	1	1	1	2	1	1				
	昭和女子大学	3	1	2	3	2	2					
	白百合女子大学	1				1		1				
	聖心女子大学			1	1							
	清泉女子大学		2		1	5	4	1				
	東京家政大学		2									
	東京家政学院大学		1		1							
	東京女子大学	1										
	東洋英和女学院大学	3	2	4		2	1	1				
	フェリス学院大学	5	3	3	3	1		1				
	理系大学	麻布大学	2	4	4	5	3	2	1			
		神奈川工科大学	11	5	2	6	5	3	2			
工学院大学		2	1	1		5	1	4				
芝浦工業大学		3	1	1	4	3	2	1				
湘南工科大学		4	4		6	10	10					
帝京科学大学		7		3	1	2	1	1				
東京工科大学		6	12	7	5	8	6	2				
東京電機大学		3	3	2	5	3	1	2				
東京都市大学		2	4	4	6	9	4	5				
東京農業大学		7	11	2		7	7					
日本獣医生命科学大学		1				2	2					
鶴見大学	歯学部	1				3	3					
	文学部	4	3	4	3	6	4	2				
卒業生数		273	202	174	191	203	122	81	***	***	***	

※再掲を含む。

※「不明」…大学通信社調べ。一般入試合格者数(現浪合計)